
カァディスからの手紙（114）

2006年7月14日

皆さん、こんにちは。

ムンディアルもとうとう終わってしまいました。この一ヶ月間ほどテレビの前の時間が長かったことは記憶にありません。私達は二人とも映画大好き人間ではあってもテレビ人間ではないので、普段はニュースと天気予報、そして週末のフットボール位しか見ないんです。日本にいた時も同じようなものでした。

それにしても、決勝戦でのジダンはどうしちゃったんでしょうね？最近ではああいふ行為から最も遠いと思っていた彼がやるとは驚きました。もっとも昔の彼は良くやっちゃってたようではありますけどね。私達は映像からでしか想像できないので真相は分かりませんが、ジダンの行為を惜しむ声は当然のことながら、ジダン、よくやった、的な声も多数あるようです。相手が悪すぎたんだ・・・と。

まあ、いずれにしても、ジダン本人には色々な意味で痛恨のタルヘタ・ロハ（レッド・カード）ではあったでしょう。彼の最後の試合だったし、そのセイだけではないとしてもチームも負けてしまったし。今期までいたレアル・マドリードでは随一の紳士であると報道陣にも好評で、イエローを貰うこともめったになかったのです。

結局フランスはリーグ戦の初戦で見せたチグハグな感じに戻ってしまっていたように見えました。勝敗は別として、めったに見れない名選手の引退を飾る試合としてはあまりにむごい結果になってしまいましたね。残念至極です。スペイン語では ¡Lo siento mucho!（ロ・シエント・ムーチョ）です。

日本に帰っても、欧州のあのスピード感あふれる華麗且つ強力なゲームを見慣れた目には、多分Jリーグではトテモ満足できないだろうことは想像に難くありません。第一、4年間見続けてきたリーガ（スペイン・リーグ）の選手たちの顔と名前の方が4年間ご無沙汰のJリーグよりよほど馴染みがあります。

日本に帰ってもスペインを初め欧州各国のゲームをリアル・タイムか完全録画で見れるようにしたいと思っています。だから、現在進めている家探しの条件にケーブル・テレビの設備も入れてあります。集合住宅では単独での導入は難しいらしいから。

でも、欧州リーグをリアル・タイムで見続けることになると、完全夜型人間になってしまいますね。まあ、どうせリーガのゲームは普段は週末だけで、365日が休日の

私達にとっては朝マトモに起きなきゃならん理由はナンニモありませんけど・・・。

「カタマラン」の巻

先週は基地の町ロタの話をしました。この町へは前に家探しのために行ったこともあり。今回再び其処へ行ったのは、基地を抱えるこの町が気に入ったためではなく、実は他に目的があったんです。最近カアディスからロタとサンタ・マリィアに就航したカタマランに乗ってみたかったのです。

*



また地図です。カアディスの港からロタとサンタ・マリィアに赤線が伸びてますね。これが今年6月から新たに就航したカタマランの航路です。

サンタ・マリィアには、これとは別にずっと前にお話したバポール＝蒸気船というニックネームで親しまれている連絡船もありますが、ゆっくりトコトコ走るバポールと高速カタマランではとても勝負になりません。それでもバポールの客も途絶えずにあるらしい。この新航路はカアディスと周辺都市の協同運行です。

右がロタの町。右下のマリーナに隣接する濃い色の部分が旧市街、薄い色の部分が新市街です。右上の赤い星が米海軍基地の正門、黒い星がバス駅、海岸の青い星が次の海水浴場を見下ろす写真を撮った場所。

前に家探しに来た時は、旧市街から外海に面した海岸遊歩道沿いに左上の緑地の方まで歩いてみました。この境界の海沿いの町ならどこにもあるようなピソ（マンション）が並んでいましたが、カアディスと際立って違うことは貸家・貸室の看板が英・西両国語で書いてあることでした。



*

私達の4年間の経験では、何かを英語で表示してある所は要注意、値段が高い上、英語で対応してくれはするものの概して感じが良くない。一遍コッキリの小さい買い物ならかまいませんが、家を借りるような場合は是非避けなければなりません。

これでロタは駄目と諦めました。とにかくアメリカの基地がイケません。

そういうわけで、今回はこの町自体には全く用無し、だから青星の地点から海水浴場の砂浜に沿ってマリーナ内のカタマラン桟橋へ直行です。

先週の米海軍基地の写真を撮った場所の近く(青星)から海水浴場の向うのマリーナをみるとこんな風です。画面の左半分がマリーナ。セーリング・ボートのマストが林立しているんですが、画像を縮小したのでぼやけてしまいました。

左端に見える建物が切符売り場と待合室で、カタマランの発着する浮き桟橋は建物の裏にあります。この日はウィークデイだったせいもあり浜の人出はカディスとは比較にならないくらいの密度です。この人たちの殆どは地元ロタの住人なのでしょう。

カタマランが就航するまでは公共交通機関はバスだけで、カアディスからは1日9便
土日は4便だけ。内陸の町からここへ海水浴に来るのは難しいのです。

カタマランも1日4便、土曜3便、日曜は2便だけですが、一回の輸送能力はバスの4～5倍は充分ありますからかなり強力な輸送機関たりうるわけで、航路開設の理由も周辺都市からカアディスへの車通勤による渋滞緩和の狙いがあったようです。

確かにロタやサンタ・マリィアからカァディスに車で通勤する人はかなりの数いるはずで、車なら渋滞のない日中でも小一時間掛かるところをカタマランなら20分余りで着いてしまうので、その方がいいと思う人は多いでしょう。

車というのは一人だけの通勤手段としては本人の経済的負担もさることながら、時間帯が限られているだけに渋滞の最大の理由になりますね。

カァディスやヘレスなどの都市周辺では持ち家志向が進むとともに郊外からの車通勤者が増加して問題になっています。アンダルシアではシェスタの習慣だけは相変わらずですから、通勤渋滞も朝夕以外にシェスタの前後にもあるわけで、一日4回のラッシュがありますから結局一日中殆ど混み合っていることになってしまいます。

一方、カタマランなら、この辺ではゴク少ない雨の日以外は快適な海上通勤が出来るはず。渋滞がなくてもカタマランの2倍以上掛かる道中を、朝のラッシュなどは3倍以上もかけてイライラとしながらの通勤よりよっぽどいいと思うんですけどね。

マリーナの中央棧橋の先端にカタマラン用の浮き棧橋があります。中央棧橋の北東側は左の写真のようにクルーザーがビッシリ係留されていましたが、反対側は右の写真の通り閑散としていました。こちら側はどうかビジター用バースらしい。



*

イベリア半島全域の海岸線に沿ってこういうマリーナを自前のボートで転々と渡り歩いたらさぞ愉快的なことでしょうね。そうすることを **coast hopping**=コースト・ホッピングといいます。しかしそれを質のいいボートで快適に実行するには宝くじを二度当てないといけません。ヒッピー同然のオンボロ・クルーズなら実行不可能ではないかも知れませんが、そういう辛い船旅をするにはもう少し若さが・・・。

ところで、ご存知でしょうが、カタマラン **catamaran** とは双胴船のことですね。元々は材木を結び合わせたある種の筏のことだったらしいですが、現在のカタマランは二つの比較的細い船体に橋を渡したような形で、船室などの構造物はその橋の上に

設けられています。また、同じような構造で下の船体が三つだと **trimaran** トライマランです。二つをひっくるめてマルチハル **multihull**=多胴船と言います。

マルチハルに共通なメリットとしては、水面下に没している部分は造波抵抗の小さい細い船体ですから、同じパワーの推進力で、より高速が出せること、複数の船体で上部構造を支えるため横方向の安定性が良いこと、水面上の居住性が良いこと、などでしょう。セーリングボートでもパワーボート顔負けのスピードが出ます。

デメリットとしては、外洋の高い波に弱いこと。特にセーリング・クルーザーなど外洋に出てゆくボートの場合、このデメリットがモロに効いてきます。横方向の安定が良い、というメリットも、転覆して180度回転するとそこで安定してしまって絶対自力では復元しないという重大なデメリットに変わってしまいます。

船体が一つの普通の外洋クルーザー、いわゆるモノハル **monohull**=単胴船では、たとえ転覆しても大量の浸水さえしなければ、起き上がりコボシのように立ち直れるのが普通ですが、カタマランやトライマランではそれは期待できません。だから、この船型はカディスのように波しずかな所にこそ最適なのです。

その内宝くじに当たるようなことがあって、たとえ船は買えたとしても、その時自力でクルーズできる若さを保っていれるかどうか。よしんば間違ってもそんなことがあってもカタマランを買う気はありません。船乗りの目からは外洋に出るならやはりオーソドックスなモノハル が断然イイ。いずれにしてもタラ・レバの話。



*

切符売り場へついた時は客は誰もおらず、発券カウンターのセニョーラも外に出てガ
ルディア・シビル **guardia civil** = 治安警察とオシャベリしていました。
治安警察なんて言うのと怖そうですが日本の水上警察的な事も管轄です。こんな平和な
トコへの配属は嬉しいでしょうね。発券オバサンとオシャベリで一日終わりカー。

しかし最近、セーリング・クルーザーなどで大量のコカインやヘロインなどを密輸し
ているのが摘発されたこともあり、一見平和なマリナーも一つ間違えると物騒なこと
になりかねません。切符オバサンとの雑談なんかに熱中しててイイんかいな。

切符売り場の前のポーチは広い日陰になっていて涼しいシー・ブリーズが吹き抜ける
格好の東屋になっていました。そこで風に吹かれていると、まもなく防波堤の外に
カタマランが見えてきました。この時点ではまだスピードは落としておらず、25
ノット(時速46~7キロ)くらいは出ていそうです。

ノット **knot** とは結び目のことですが、それが何故船のスピードを現す単位になっ
たか？ 帆船時代には、ロープに一定の間隔で結びコブを沢山つけ、その先端に扇型
の木製の浮子をつけて船尾から流し、一定時間内にコブがいくつ出てゆくか、で速度を
計測したんですね。結びコブが5個出たら5ノット **knots** という具合。
スピードが速ければ早いほど一定時間に出てゆく結びコブは多くなります。



スピードを落として港内に入り、浮き桟橋に近づいてきた所を見ると、オヤ？ カタ
マランではなくてトライマランじゃないの？ と一瞬思いましたが後ろから見るとや
はり間違いなく双胴、カタマランでした。

前から見ると三胴のように見えるのは、上部構造を支える橋の部分をシャープな形に
下方にせり出して、下からの波の突き上げを緩和しようという工夫です。後ろから
見るように橋の下面が平らだと波が下から当たった時大きな衝撃を受けます。
だから波に突き上げられることが多い前だけでも衝撃を和らげようというわけです。

では、何故、初めから橋部分の下部が全長に渡ってシャープな三胴にしないか？という、多分、建造コストの大小、メンテナンスの難易度、港内操船の難易度、三個の船体の大きさのバランス配分と商業性(客室スペースを大きく取れるか否か)、などの問題があると思われます。

プレジャーボートでもトライマランはカタマランよりずっと少ないですが、実用ボートではその傾向は更に強く、カタマランは近年港内遊覧船や沿岸フェリーで増加傾向にあると思いますが、トライマランは殆ど見たことがありません。

多分、前述のマルチハル(multihull=多胴船)のメリット以上のデメリットがあるのだと思います。Rは乗ったことも操船したこともないのでそれについてはよく知りませんがいかにも操船しにくいだろう事は想像がつきます。

*



出港して防波堤をかわすと一気にトップ・スピードです。FRP(強化プラスチック)の軽い船体と、カタマランの特徴である造波抵抗の小ささでトップ・スピードに達するのもアツという間。高速のわりに大きな引き波が出ないのもそのためです。

ロタの港外に出て暫くすると、左手近くに例の米海軍の基地を見て南下します。

*



*



基地の反対側、右手前方には見慣れたカステイヨ・サン・セバスティアン。但し、

いつもベランダから見ているものの裏側です。左手は旧市街の先端。



*

現役の頃はカァディスのはるか沖合いをジブラルタル海峡に向けて、またはその反対にジブラルタルからイングリッシュ・チャンネルに向けての通過のみ、こうやって港口から大聖堂を真正面に見てこの港に入港することはついにはありませんでした。

この港は港口は広く開いているのに外洋のうねりが入ることもなく一年中平穏で、台風のような災厄もない、実に天然の良港と言えるでしょう。だからこそ紀元前の昔から港町として栄えてきたわけです。

しかし、近年の海上輸送の形態の変化、即ちコンテナ輸送への移行には対応し切れず、近代港湾としてはイマイチです。なんと言っても土地の狭さが致命的で広大なコンテナ・ヤードを造成できないのが泣き所。だから巨大なコンテナ船は入港せず、いまや主要港湾としては些か立ち遅れのようなのです。

一方、スペイン第四の都市セビージャから一番近い地の利を得て、客船の入港は頻繁です。けれども、その客の大部分はカァディスを素通りでヘレスやセビージャ観光に行ってしまう、地元には落ちるお金はそう多くないと言えるでしょう。

カァディスに大きな観光の目玉がないのは、何度も戦乱に巻き込まれて、歴史的な古

い建造物はその都度破壊されてしまったから、らしいです。

♪ハールバル来たぜ♪ とは言いがたいあっけない航海。ロタの防波堤を出てカァデイスの防波堤先端まで、僅か10数分。我が生涯最短の航海でありました。

先週の土曜・8日から東の強風が続き、カァデイスでは最悪の気象パターンになっています。東の風、即ち内陸からの風は、ギンギラの太陽に熱せられた大地を吹き渡ってくるので正に熱風と言うにふさわしい。

それでも、目の前が大西洋というこのパセオ・マリティモでは日陰にさえいけば何とかかなりますが、内陸各地は軒並み40度を越えたようです。セビージャやトレドなど夏の暑さで有名な所では43度なんていう報道もありました。

東風が吹くと暑いだけでなく、ろくなことはありません。内陸からの風に乗って色々な羽虫が飛んできます。ハエや小さい蛾や羽蟻など等、これにも参ります。

これまでも東風が吹き続けることは何回かありました。しかし一週間吹き続けということとは記憶にありません。モロッコに低気圧があるとうなるんですが、と言うことはモロッコの砂漠地帯では一週間も雨が断続しているのか？それも異常です。

我が家の居間の温度計もツイに30度を記録しました。暑いのがキライなNは青息吐息。まあ、でも、これ以上になることは多分ないでしょう。唯一の救いは湿度が高くないこと。気圧配置を見ると、日曜あたりにはいつもの涼しいシー・ブリーズが期待できそうです。

日本でも梅雨明けはモウすぐですね。今年は空梅雨ぎみだったとか。ベツタリと湿った日本独特の夏の暑さに来年どう順応するか？スペインに帰りたいと言ってもモウそれは出来ません。今はこぼしている私達、このカラッとした暑さを懐かしくなるに違いない。勿論、大西洋から吹き寄せるシー・ブリーズも・・・。
